

## 混沌とするブラジル大統領選挙

-市場では政権交代への期待に高まり。本格的な景気回復にはブラジル・コスト削減が不可欠-

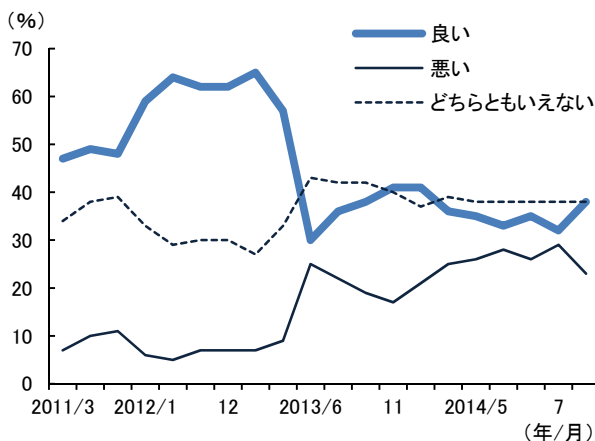
(1) ブラジルでは、ルセフ政権に対する評価が、昨年6月のデモを境に悪化しており、2014年10月5日に実施される大統領選挙での再選が不透明な状況に（図表1）。背景には、政治腐敗、公共サービスの質低下、高インフレに対する国民の不満が指摘可能。

(2) そこで、大統領候補者の支持率をみると、依然としてルセフ大統領がトップを維持しているものの、他候補者との差は縮小傾向。とりわけ、カンポス氏の事故死を受け、出馬を表明したシルバ氏（ブラジル社会党、中道左派）の支持率が上昇（図表2）。

(3) 選挙結果を展望すると、ルセフ大統領対ネーベス氏（ブラジル社会民主党、中道）、またはルセフ大統領対シルバ氏で決選投票へ進む可能性。世論調査によれば、前者の場合はルセフ大統領が有利に、後者の場合はほぼ互角の状況（図表3、注1）。もっとも、シルバ氏支持の急上昇はカンポス氏の事故死を受けた同情票という側面が強く、ルセフ大統領、ネーベス氏の支持率に変化はなし（前掲図表2）。シルバ氏の公約が期待外れとなった場合、ルセフ大統領に有利になる可能性も。

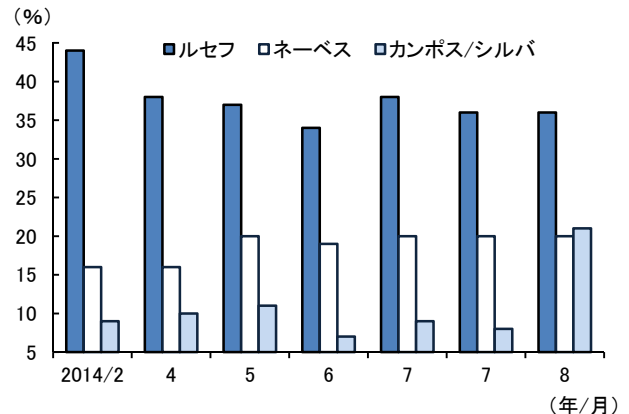
（注1）ブラジルの大統領選挙では、第1回投票でいずれかの候補者が過半数の票を獲得できなかった場合、上位2名による決選投票にて選出。

（図表1）ルセフ政権に対する評価



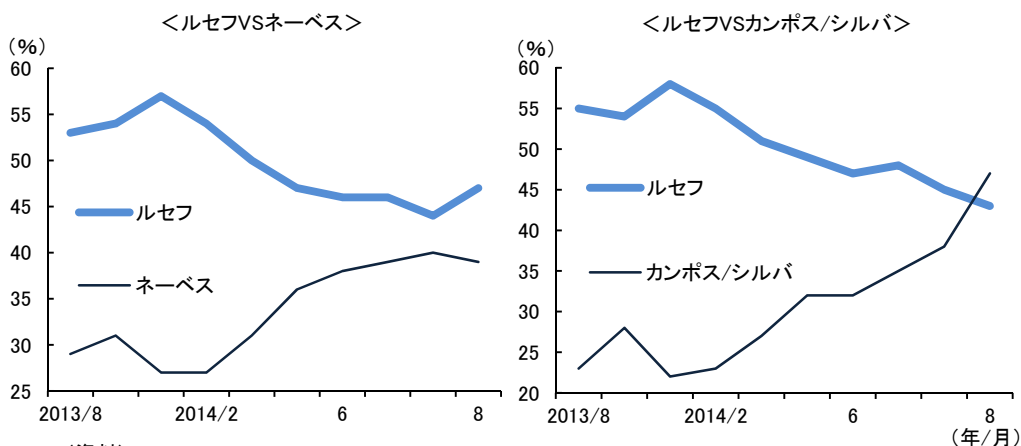
（資料）Datafolha  
（注）Datafolhaはブラジルの世論調査会社。

（図表2）大統領選挙候補者支持率の推移



（資料）Datafolha  
（注1）7月は2回調査を実施。  
（注2）2014年8月調査よりシルバ氏。それ以前はカンポス氏。

（図表3）大統領選挙決選投票の予想



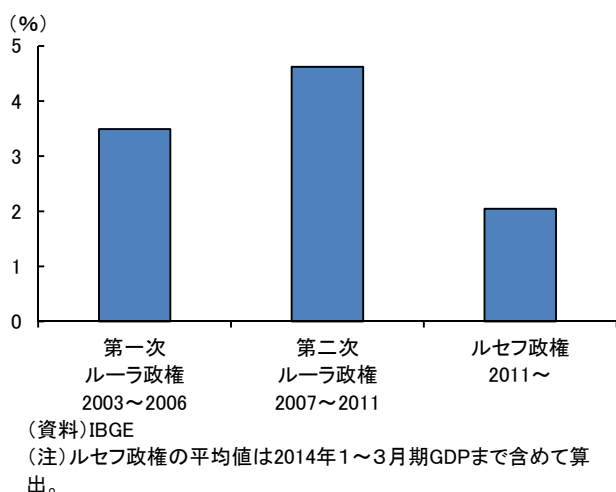
（資料）Datafolha  
（注）2014年8月調査よりシルバ氏。それ以前はカンポス氏。

(4) 一方、ルセフ大統領就任以降の低調な経済パフォーマンスを受け、市場では政権交代への期待が高まっており、本年入り以降ルセフ大統領の支持率が低下するのに伴い、株価や通貨が上昇（図表4、5）。仮に、ルセフ大統領が再選すれば、市場はネガティブな反応を示す可能性。加えて、消費者、企業マインドの低迷を招き、低成長が長期化する恐れも。一方、他の候補者が当選すれば、期待先行でマインドは回復へ（注2）。

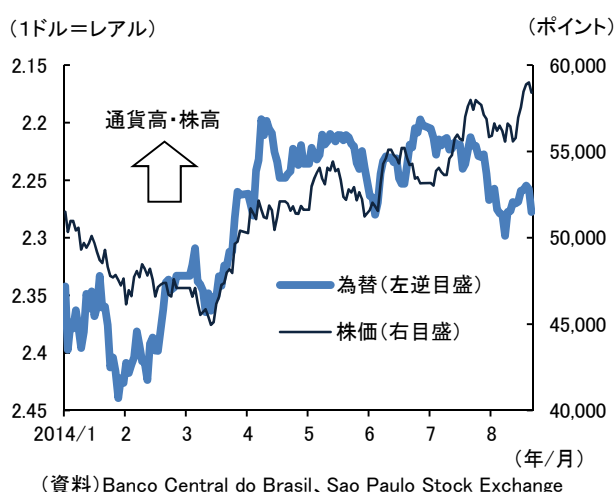
（注2）各候補者の政策を大きく現状維持、改革推進とで分けると、ルセフ大統領は引き続き現在の社会政策を踏襲するなど前者の色合いが強く、ネーベス氏は投資促進、行政改革など後者よりの政策を表明。また、シルバ氏は具体的な政策はまだ発表していないものの、改革路線の政策を表明する見通し。

(5) もっとも、高インフレ率や高コストの主因となっている複雑な税制等のいわゆるブラジル・コストにより、個人消費や企業活動の大幅な伸び加速は期待薄。世界銀行によれば、ブラジルのビジネス環境はチリやメキシコといった他の中南米諸国と比べて、総じて見劣り。とりわけ、納税面は利益に占める税金の割合や納税に費やす時間が過大であることから、世界的に下位に低迷している状況（図表6）。どの候補者が大統領に選出されても、本格的な景気回復には、これまで先送りしてきたブラジル・コスト削減に取り組むことが不可欠。

（図表4）大統領在任中の平均成長率



（図表5）為替と株価



（図表6）中南米諸国のビジネス環境

